



## 『自分は今を創る主人公』



学校HP “校長ブログ” “各学年ブログ” で教育活動を紹介しています

豊岡小学校は、本年度  
150周年を迎えます

# 命を守る主人公 ～ 守る夏, 続ける夏 ～

学校は、正しい命の使い方を学ぶところ。今学期もこのことを繰り返し伝えてきました。新型コロナウイルス感染症第7波が始まったとの報道の中での夏休みの始まりとなります。感染症対策をはじめ、一人一人が「命を守る主人公」として正しい命の使い方を考えながら、心身共に健康で子ども達の笑顔があふれる夏休みになることを心から願っています。

そこで、終業式では、「命を守る主人公になること」を私からの宿題としました。

そのキーワードは2つ。【守る】【続ける】です。

【守る】 守ることの中身は、「安全・時間・約束」です。

感染症予防、交通安全、不審者への対応、規則正しい生活、インターネット・ゲームの約束、お金や時間の使い方…等、夏休みは正しい命の使い方を磨くチャンスがたくさんあります。

守ることを決めて人任せにせず、自分で守る夏休みにしてほしいと願っています。

【続ける】 続けることの中身は、自分で決めたことを続けることです。

「本物は続く。続けると本物になる。」

これは、豊岡市但東町出身の東井義雄先生の言葉で、7月7日の全校朝会で子ども達に紹介しました。その時に、この言葉の意味を自分なりに考えて仲間と交流することと、夏休みに何か続けることを自分で決めておくことを伝えました。学級では、この言葉について考えを交流してくれました。低学年では、「続けることはいいこと。」

「あきらめないでがんばること。」「続けるとできるようになる。」「夢に近づく。」等が出されたと聞きました。子ども達なりに理解してくれたことを嬉しく思いました。また、日々の生活の中で、本物だと思ふ仲間の素敵どころが次々に話題になる学級もあったと聞きました。学級の素晴らしい関係性を嬉しく思いました。

守ること、続けることを意識して、子ども達が命を守る主人公として正しい命の使い方を磨いてくれることと何を続ける夏休みにしてくれるのが楽しみです。

第7波の状況を考えると不安な気持ちになりますが、保護者の皆様のお力添えをいただきながら、子ども達が心身共に安心・安全な夏休みを過ごせることを心より願っております。保護者・地域の皆様のご理解とお支えのおかげで1学期を終えることができました。心より感謝申し上げます。

## ◇ 夏休みに試してみませんか…

### 天声人語

「反復」という行為について時々考えることがある。

たとえば「何々をしておいて下さい」と、ひとにものを頼むとする。頼まれた方は「よしきた」と引き受ける。しばらくして「何々をしておいて下さいね」と、頼みを反復する。わかっている、と頼まれた方は思うが、人間だから忘れていることもあり得る。反復は念を押し、確かめるためと心得て「はい、必ず」と応じる。

もう一度「何々をしておいて下さいよ」と同じことを頼んだら、その時の反応はどうだろう。うるさいな、と思う人が多いのではあるまいか。信用しないのか、と怒る人もいるかもしれない。親子のやりとりに、よくありそうな光景だ。

心理学的に言うと、最初に頼むのは「提示」で、第二の段階は「確保」または「確認」、そして第三段階は「干渉」なのだそう。三回も言われると、干渉されたと感じて抵抗する心理が働く。 ～略～

これは、随分前の朝日新聞「天声人語」からの引用です。

みなさんはこの文章を読んでどう思われましたか。

私は、これを読みながら、担任をしていた頃に、教室で子ども達に何度も同じことを繰り返し言っていたことを思い出し、反省の気持ちで一杯になりました。正しい命の使い方を学ぶためには、繰り返し言い続けなければならないことはもちろんあります。けれど、同じことを繰り返し言われ「しつこいなあ。」「信用してないのか…。」と、不快な気持ちになったことが何度もあったのではないかと思います。自分が同じ立場として考えてみても、【心理学的な「提示」→「確保・確認」→「干渉」という心理が働くことに納得できます。伝える内容と伝え方を見直す必要を感じました。

これは繰り返し伝える必要と価値のあるものなのか…。子どものためだと考えて繰り返していることは、実は、自分の都合ではないのか…。また、この伝え方は、相手との信頼関係を損なったり、子どもから自主性や自立心を奪ったりするものにならないのか…。等々と考えさせられるコラムだと思いました。

相手を信用している状態では、「反復」の必要はありません。特に、「依頼」についてはそうだと思います。子どもとの関わりが濃密になる夏休みに、「反復」を見直して、子どもとの信頼関係を深めることや、子どもの自主的な行動や自立心を育む関わり方を考えてみるのも面白そうです。

そこで、この夏休み、

- ◇ 一方的な「反復」の言葉を控え、双方向の「対話」を心がける。
- ◇ 「反復」するのは、褒める・認める・喜ぶ言葉にする。
- ◇ 非認知能力である「やり抜く力」「自制心」「協働性」に関わることには必ず褒める・認める・喜ぶ言葉を使うことを心がける。

の3つのことを意識してみるというのはどうでしょう…。

保護者の皆様も心身共に元気で楽しい夏をお過ごしください。

